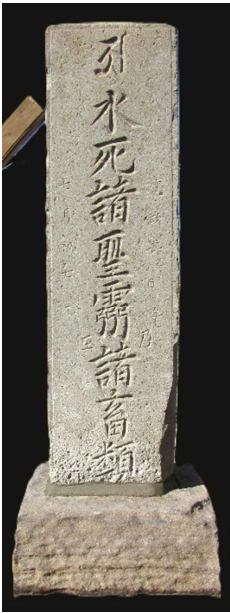


出洲浅間山噴火供養塔

- 1 所有者等名称・住所 宗教法人水神社 代表役員 堀越 静 千葉県野田市吉春853番地
- 2 管理者等名称・住所 同上
- 3 種別 有形文化財（歴史・災害資料）
- 4 名称（よみ）及び員数 出洲浅間山噴火供養塔（でずあさまやまふんかくようとう）1基
- 5 所在地 千葉県野田市木間ヶ瀬9427番地2
- 6 物質及び法量
石（安山岩）、高81cm 横21.6cm 奥15cm 兜巾型角柱
- 7 現状(写真添付)



【正面】



【右側面・銘文】



【祠堂内】

天明3年（1783年）に群馬・長野県境に位置する浅間山が歴史に残る大噴火を起こした際、利根川を流れゆく犠牲者等の慰霊のために建立された供養塔であります。

供養塔は寛政元年（1789年）7月、浅間山噴火災害から7回忌に相当する年に建立され、右側面には村人たちが落ち葉のごとく流される犠牲者等を悼み建立されたことが記され、浅間山噴火災害の惨状を伝える歴史の証言物であります。正面に「水死諸聖霊諸畜類」と刻まれ、「諸畜類」とあることから、人のみならず家畜類も含まれていることがわかります。江戸川沿岸には多くの供養塔が遺されておりますが、利根川沿いでは千葉県側に2基確認されているのみであります。

現在は受け継がれておりませんが、出洲地区ではかつて「川っぺり信心」と呼ばれる水死者等を供養する川施餓鬼が行われており、地元では、この川施餓鬼は浅間山噴火の頃に始まったとも伝えられています。現在、地元の出洲集落では、供養塔を風雨から保護するため覆屋を設置しています。

令和8年に野田市の『有形文化財（歴史・災害資料）』に指定されます。